50

事務研究

宮谷教授論文

事務函研究

目次

緒論

第一章　總論

第二章　照明

第一節　光ノ性質

第二節　照明ノ定義

第三節　色ト光線ノ干係

第四節　將ノ三方法

第五節　光線ノ必須要件

第六節　事務函研究方法

第七節　太陽光線

第八節　照明ノ二千八百組說

第三章　聚音

第一節　音ノ性質

第二節　事務函ト音ノ干係

第三節　騷音ノ原因

第四節　防音及吸音ノ低減法

第五節　騷音ノ影響

第六節　騷音ノ種類ニ就テノ組說

第七章　遮音

第一節　遮音

第二節　通風

第三節　息気

第八章　通風

第一節　遮音

第二節　通風

第三節　息気

第九章　採面ノ決定

小樽高商研究室制定論文用紙（24×20）

緒論

今日現代資本主義ガ千ノ最高潮ノ時ニ達シ来タリ近レテ千ノ形ヲ何カニ者ヘントシテオル傾向ニ多分ニ見エテオル。如シ此ノ事ハ元人ノ今回ハントスル所デハナイ。

現代資本主義ガ千ノ弊害ノ欠陥ヲ補フ為ノ千自ヲヨリ良ク発達セシメル為レテ衣イノデアルガ近来特ニ欧州大戦以後ニ於テヨリ益々進ミ以ハ今私ハ産業合理化ナル語ヲ連用キ又目ニ見ルノデアル。

産業合理化トハ一言ニシテ云ヘバ和テ無駄ノ排除デアリ此ニハ同ジ生産方面及ビ分配方面組織

ノ不用又手数ノ不用ト稱セラルカ如キ事ノ(所謂)ノ産業改合、大ニノ産業合理化運動デアロウ。

今日我国ノ産業合理化ナル物ノ中最モ能率ニ関シ研究サレテオルノハ彼ノ能率研究ノ文ト称セラルカ如キ米国ノ技ト称スル工場ニ於ケル其レデアリ今元人ノ説カントスル事柄能率ニテハ余リ千ノ研究ヲ見テイモノデアル。勿論此ニ於スル文献モアルニハアルガ仮ノ千レヲ此ンテ基ク合トシヘ様。

一昨年ノ春私用ノ為同郷ニ赴キ千ノ帰途ノ車中ニ於テ某都市ノ実業界ニ居リ居テオル市会議

員ヲ今ヨリ早速工会議所議員ガ私ニ話シテヤノ
様ナコトヲ言ウレタ。日々現代ノ官吏ヤ大会社
ノ事務年鑑ニ怪シムベキモノデ氏名ヲ私達
ノ如キ者ニ携ラスナラバ現在ノ人員ノ半分又
ハ三分ノ一ニテ立派ニヤツテヰルト氏ノ言
葉全体ヲ平ノ僅ニ受ケ取ルコトハ出来ナイトシ
テモ現代ノ事務ガ如何ニ多数ナコトヲシテヰ
ルカノ一端ヲ伺フコトハ許サレルカト思フ。
従来我国ノ所謂サラリーマンニハ過保護主義ヤ又
官僚所風ガ依然トシテ残ツテヰテ執務上実
毎数ヤリ低年ヲカケテヰルル近来強ル方面
ニ合理化重初ノ手ガ近ビ来タ事ノ弦更ヲ侵テヰ

ル今日氏ノ事務方面ノ低年ノ研究ノ陰ヲタル
コト誠ニ商ヌレモ有益デハナイカト思フ。故ニ多
ザリトモ氏ノ方面ヲ研究シ事務低年ノ中
以上ノ事情ヲ考ヘ合ノ選定ニ就イテ見ヨイ
ト思ヒ敢テ氏ノ題ヲ選ンダ理由デアル。

第一章　緒論

予算ノ合理化ヲ完全ニスル為ニハ先ヅ第一ニ某ノ執リ扱ヒタル予算ト研究ヲ第一トセナケレバナラズ、又予算ト会社ノ一部分ニシテ予外部（事務同様）ト接触セテアリ密接ニ取扱フ場所デアル故ニ予算ノ合理化即チ能率増進ハ会社全体ノ成功カ不成功カヲ決スル程ノ影響ヲ与ヘル。況シテ現代予算ハ多ク執務同様ノ性質ヲ失ハナイノデ研究ヲ要スル。況シテ本論ハ此ノ様ニ解決サレルモノデアツテ隨ツテ元来今ハ予ハ最初科学的予算組合ニ依リ更ニ又同様ニ解決サレルモノト信ズル。

此意サレナカツタ予算ノ同様モ此ノ研究ニ依リ為ル程度迄解決サレルモノト信ズル。

又環境ノ支配力ノ大ナル事ハ言フ迄モ無ク人ノ性格ニ於テモ環境ノ影響ヲ受ケルトカ稚子ノ母ガ養育ノ仕方ヲ変ヘテ行クガ如ク人事モ同様ノ結果迄ノ激レリ今日ニ於テ色々ノ信念ガ変ヘテ見テ取ラレルガ如ク多クノ場合ニ於テ人事モ同様ニ多様ニ社レテ変ヒトシテ本ルコトハ許サレナイノ事ノ少ク此ノ環境ヲ変化セシメ本人ナラズノ事デアル。況シテ此ノ方法ニハ二通リデ

一、自己ノ周囲ノ状態ヲ自己ノ生活ニ適合スル様ニ改変化セシメル方法

一、自己ノ周囲ノ状態ヲ自己ノ周囲ノ状態ニ順応シテ適合ス

ル様ニ変化セシメテリウ方法デアル。

之ノ人ハ右記ノ二方法ノ外シテ取リタハ修養シ

勤キニ其ノ時状態ニ依リ臨機応変ニ取リ入レ

仕方ヲ外シカノ方法ニ依ラナケレバナラス。

事務能率ヲ充実スルニ主ト事務ノ改良ヲ

ナスモ仕事ハ強制デアル。良キ事務ハ其ノ

目的タル今後化ヲナサレメル比較的容易デア

リ事務負担ノ球合ニ於テモ自己ノ能力

ヲ充分ニ発揮スル様会ヲ見出スコトガ来ルン

援導者ハ活様ヲ活所ニ今後修養最重要件デアル

発見シ出ラコトガ出来ルノデアル。

事務員ノ環境ハ協同人間ノ作ラレテノデアル

欲ニ迫ミテ事務欲ヲ得ル為ニ於テハ必レハ

各事務員ノ職業トノ矛盾ヲ起シ為ニ

リ、修養様ヲ引ケリ且ツ平和ノ新球デアル所ノ

事務ヲレテ作ル物快ナ秩序アル球所トシ

執務ト快活ニ活ラカニ敏速ニ正確ニ事務ヲ遂

サレ得ル様ナ環境ヲ作ラナケレバナラス又。

次ニ筆ヲ今ヲ今日ノ人ノ新ラ陥リヲ説

カントスルモノデアル。

第二章　照明

照明ニ関スル研究ハ其自体デ既ニ立派ナ課目ヲ為ス程デアリ今日以ニ於スル文献モ亦少ナイノデアルガ我々ガ執務ト云フテナケレバ之ガ為ニ傷ラシタ眼ニ対スル手当ガ出来ナイト云フガ如ク執務ト疲労、能率ノ関係一通リハ必ズ得テ置クモノデアツテ先ヅ以テ之ガ為デ設ケカニ執務スルノハ蓋シ意義ナルコトト云ハネバナルマイ。

現在デハ昔ハノ如ク単ニ眼ハ左カラト左肩カラト云フ程度ノ習慣デハ到底能率的ノ効果ノ如何ニ迄来ナイ、ト云レテ現在各学者ハ実際ニ於テ基ダシク暗黒キ所謂見エレバ足ル主義デアルガ此レデハ不完全ナノデアツテ意人ハ労力ト時間ノ許ス限リニ於テ大イニ積極的ニ研究スルモノガ必要デアル所ハ所謂ノ学問校師ナリニ成レバ全ク設ケナケレバナラヌ。

完全ナル照明ハ仕事ノ能率ヲ高メ眼ノ疲労、神経ノ疲労、神経過敏、精神ノ不穏ヲ減少セシメ周囲ガ明ルキガ設ラカナ気分デ執務スルコトガ出来ルノデアル

(1) 眼ノ疲労ヲ除ク為ニハ下記ノ条件ニツガ必要デアル
a. 閃光ト反射ヲ除クコト、遮蔽スルコト
b. 机上ヲ十分ニ明ルク照シテ物ニスルコト
c. 適当ナ眼鏡ヲ用ヒルコト

六ノ項　光ノ性質

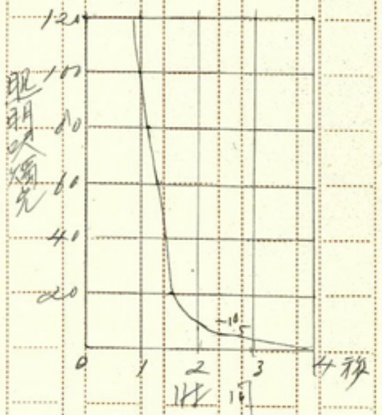
光ノ性質　光源ハ能ク多種多様ナ物質デアツテ光波ヲ放ちスルモノデアルソシテ人間ノ眼ハ式ノ光波ヲ受取ル様ニ調節サレテ居リ之等ノ光波ハ直接光源カラ来ルモノ直接照射ト最初被用壁天井様等ノ面ニ反射シテ来ル間接照射トに分ケタル第間接照射ナルモノガアル。

物体ニ使用セラレル光量ハドノ位ノ大キサ迄我々ガ物体ヲ視ルコトガ出来ルカ又ドノ位ノ速サデ物体ヲ視ルコトガ出来ルカトイフコトヲ問ヲ参照スル時ヲ移ニ人間ノ眼ガ有効(1)燭光ノ照度ヲ受ケテ居ル時ニ一秒離レタ所デローソク一本ガ投ズスル照ルサラフル。

六ノ項　光ノ性質

光ノ性質　光源ハ能ク多種多様ナ物質デアツテ光波ヲ放ちスルモノデアルソシテ人間ノ眼ハ式ノ光波ヲ受取ル様ニ調節サレテ居リ之等ノ光波ハ直接光源カラ来ルモノ直接照射ト最初被用壁天井様等ノ面ニ反射シテ来ル間接照射トに分ケタル第間接照射ナルモノガアル。

物体ニ使用セラレル光量ハドノ位ノ大キサ迄我々ガ物体ヲ視ルコトガ出来ルカ又ドノ位ノ速サデ物体ヲ視ルコトガ出来ルカトイフコトヲ問ヲ参照スル時ヲ移ニ人間ノ眼ガ有効燭光ノ照度ヲ受ケテ居ル時ニ一秒離レタ所デローソク一本ガ投ズスル照ルサラフル。



ヲ為所ノ場ヲ平ノ人工照度ガ八燭光ヲ以テノ球全ハ式ノ間義ノ意義ハ類ル意ヲ示ニナルガ若シ文燭光ノ照度ヲ以テ仕事ヲスレバ自分ノ欲スル物体ヲ視ルニニ秒ヲ要レ若シコレガ三燭光ナラバ見ナ程明カタル。現在

多クノ予算ハ必要ノ場合ガ殆ンド多イ様ニ思ハレル如斯不合理ナ現状ハ予算ノ何ヲモ割(50%)モ多ク浪費サセテ居ルノデアリ毎日カヽル状態ヲ続ケテハ予算員ノ親分ハ遂ニ隠セルモノデアリ又能率分ナルモノモ自分ニ引ケル。

次ニ項目照明ノ定義(一般照明定義)

物体表面ノ照明ハ其ノ表面ト光源トノ距離ノ二乗ニ逆比例スル。

此ノ定義ヲ具体分ニカヘバ一次ノ距離デ一次燭光ヲ越シニ次高レタ所デハ九分ノ一燭光ヲ出ストカヲ計ル。又此レヲ逆ニ見タ場合ハ二次ノ距離デ一次ルト光源カラ二次高レタ物体ノ表面ノ照明ハ一次ノ四度カラ見テ4%トスルトカヲ計ル

次ニ項色トノ関係(反射)

自色ト八0%(反射率)

象牙色ト七0%

白色ト三%

サルモン桃色ト四0%

オリーブニ0%

黄紅色ニ七0%

次ノ表

(1) 松本俊郎氏 70頁(予算表等ニ使用ノ方法)

色別	反射率
白色粗面	八十二%
クリーム色	八十〇%
白色滑面	七十〇%
白キ印刷紙	六十〇%
木(白キモノ)	五十〇%
黄色紙(薄)	四十九%
〃(濃)	三十〇%
青色	二十七%
木(淡色)	二十〇%
褐色紙	十三%
黒色	八%[1]

之ニ表シ(1)

色ヒロード〇、七%

尚硫黄分ナク分量ノ壁色トシテ所謂ノ形成

Mg₂Cl₂ 氏ノ分析ノ結果ニ依レバ左ノ如シ

所ケ壁色ハ第類ノ型ナル故クリームトシ以

ヒハ落鼠色ヲ最適トス

註釈者佛蘭色ハ不十分ナリ夜釋ナ者不色ナリト又。

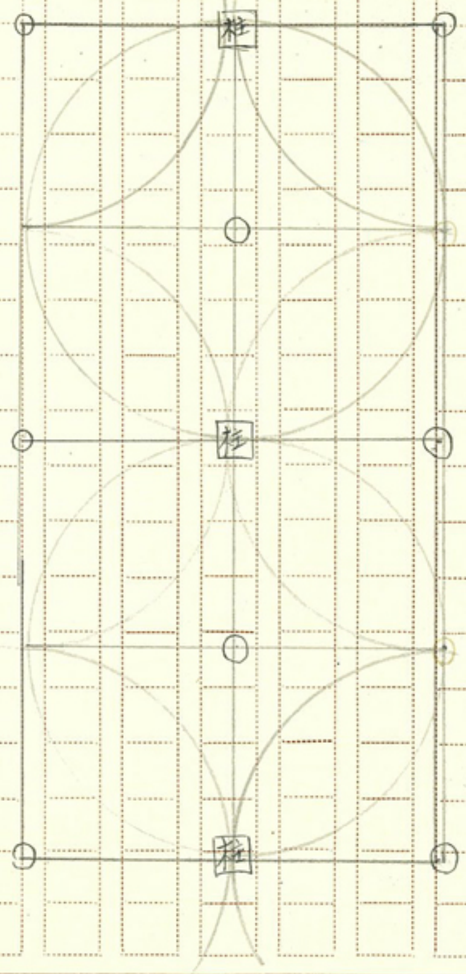
(1) 24頁中外産業調査会"事務要覧"

第四項　照明ノ三方法

一、直接照明法

此ノ方法ハ光源ガ目ニ見エテ其ノ被照ル光線ガ位置ノ如何ニ拘ラズ直接来ルモノデアルガ此ノ方法ニ依ル場合ニハ被照ノ光線ガ光源ノ大ナル為メニ大ナル能率ヲ發揮シテヰル所デアルガ今ニ到リ此ノ能率ハ敢テ不同スルノデ此所デハ敢テ不同此ノ方法ニ依ル場合デモ光源ノ数ヲ増シ又光源ヲ相当大ニスルヿニ依リ或ル程度ノ効果ハ挙ゲラレルノデアルガ此ノ場合注意スベキハ原光ハ八吠一十吠位ノ所カラ照ラスヿガ得策デアリ和所為ラノ光源ヲ用ヰル場合ニハ光線

(1) 中外電線調査会"手引書類" 15ページ以下参照。



カ多ク左右等分ヲ用ヰリ来リテ為ス内光ハ被和サレ濃度ナ陰影ハ皆元トナルモノデアルガ又注意スベキハ極ニ依リ光線ノ度断セラレガルヿデアル。

○ハ光源ヲ示シ用又弧ハ被材範囲ヲ示ス

高揚ノ国ハベツカ氏ノ設計ニ依ルモノニシテ
光線ヲ一ノ様ニ分配スル方法デアルガ広シ仕事
ノ性質例ヘバ製図ト力ノ多ナス場合ニハ
経済ト今ノ作業デハナイガ電気スタンドヲ用
シテ足ラザル光線ノ補フモキデアル。
又氏ノ国ノ球会ニ於テハ吹燭光一十吹燭光
ナルガ如ク電球ヲ配置スレバ赤色ニ近イ
モノニナルデアロー、仮令ナラバ光源ガ遠度ノ
賜光ヲ出ス位ノ程光線ヲ放射シナカラ引アル。
今蓋ノ金属ヲシテ又ハ互所ラシテハ最近市場ニ出テ来ル
ヤニ電球ニ於イテ方ヘハ長
ナルガ人間ノ眼ヲ(直接照射ノ様
要ノ節ハナルガ人間ノ眼ヲ(直接照射ノ様

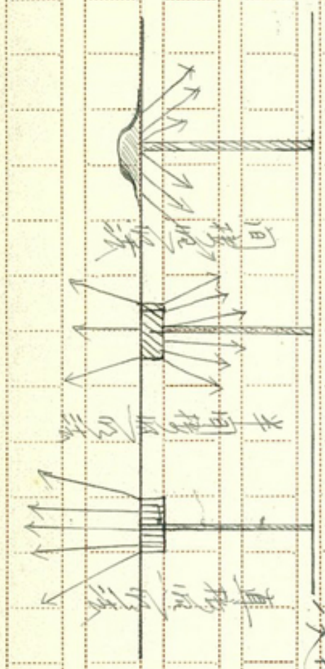
ニハ)孔ヲ穿スル故注意シテイタレバイラス。
又氏ハ直接照射法ノ中ニモ光ヲ一ニ絞ガアル
一、直接光直接照射
ニ拡散光ッッッッ
ヲ者ハ透射ガラスノ電球ニ筆ヲ使用シタ
モノヲ、又者ハ乳白色又乾燥ガラスノ如ク
ノ等ニテ光線ヲ包ンダモノデ(現在各方面
ニ拡ク用ヒラレテオル光ハ拡散体トナリテ照
射面ニ投スルモノデアル。
二、半間接照射法
氏ハ光ノ五十%或ハ五十%ハ天井又ハ壁柱等
及其物ヲ使用シテ上ニ光ヲ送リ天井又ハ壁柱等

ニ反抗セレメル方法ヲ引クル。勿論殺り先ハ直接
照射ノ後日ヲナスモノヲ引クル。
式ノ球全ニハ遠ク設置サレタ直接照射ノ球
全ニ比レテ同一量ノ光線ヲ得ルタメニハ
方々ノ中心タル方員ノ視力ノ疲労ハ著
7.1 ヨリ7.6迄計算力ガ多ク引アルカ一
ニ比レテ全程不足トナル故ニ式ノ方法ハ家用
ト効果ヲ兼ネタモノヲ設備ノ手保ヒ操作モ手
軽ニ出来ル点ガ大ニ数倍ハ
建築ヒノ効果ト調和ガトレ難カトナリ
述ノ間接照射ヨリハ経費ハ全体廉価引アル
用ヒテ天井ヲ光式方法ガ多イノ引アル。

三、間接照射法

式ノ方法ハ光線ガ天井又ハ壁面等ニ一度反射
サレタル後初メニ到着スルモノヲ引クリ先ヅ机
ヒニ来ル近ニ続ニ広ク分散サレ隠ツテ眼ニ眩
光ノ来ル心配ナク、即光力ヲ減ズルコトナクシテ
眩光ヲ避ケルニハ式ノ方法ニ陽ノ引クル。
併シ式ノ方法ヲ使用スル球全ニハ天井壁面ヲ
ノ反射物ヲ及材料ノ大ナル白色又黄レニ
類似ノ色ニスルコトガ必要引アル。
一方眼ノ疲労ヲ元ツテ式ノ間接照射
ハ太陽ノ光線ニ元ヒ近イ物ニスルコトガ出来ル
如ク牛ヲ経費ヲ要シ見レバ前述ノニ者ニ

稍言ヲ直接照射ノ夫レニ比スレハ めて少ナ七十%ノ電力ヲ消費スルノミガ実際式ノ方法ヲ用ヒテオル孰方家ノ談ニ依レハ往年(孰方)迄ハ幾度ニ換ヘ幾度ニ換ヘ結果ハ電力ノ節約ト塵埃ノ害サ軽少ト信ス



倍ナリトシテオルト。

尚式ノ未尾ニ式ノ三方法ヲ用ヒスレハヲ通リデアル。

第四項 光源ノ位置条件

第四項迄ニ照射ノ方法ヲ大体ホヾ述ベテ来タ

次ニ光源ノ位置条件ヲ簡単ニ述ヘテ見ル。

一。第一ニ光源ハ光ヲ最大限度ニ式ヲ用ヒテ照射スル光源ハ光ヲ反射シテ照射スルモノデナケレバナラヌ又一定区域ニ於ケル照射強度ノ差ハ如何ナル場合ト雖モ此ノ比ヲ計算シテ見ルコトヲ要ス

二。構造方法ノ簡単ナル操作ノ手数ヲイラヌコト

光源体ノ機械部分ヲ少ク以ガ望マシイ。

電位ニテ手軽ナ各種部分ガ入手シ易キコト。

三。光源体ノ税金ハ使用スルトキトカ同ジ

ニハ人ノ子ニ生レテ
ハ人間ノ一員ニ成リ
ヲ人間ノ一員ニ成リ
ヲ人間ノ一員ニ成リ
ヲ

移り状態ニ改善シテハカネムナラヌモノ
ニテ二般ニ施行サレタリトサレテオル方法
挙ゲル人

1 後ベテ一体面私仕ケテ一人デ自己プリントヲ
作ヨ

2 他ニ一照版製造ヲスケレカキ留メヨ

3. プリントクレニカ十字ノ印ヲ使ッテ、

照版器具ノ位置ヲ表示シ集ト各器具ニ使用
サレテオル電力量ヲ示わせ。

オイメトメーヲ使用シテ各完了ヨリ私ト
ニ教材サレタ処ヲ計量セヨ(1)

現在ノ照版方法ヲ調査スル形之レヲ援助スル

(1) オートメーターの使用スルことの使用技計量技人工合ニモ使能ナ機械ニ対合社計算会ルことを使ルモ使用年ニ比カスなる方法

為ノ改善ヲ考フル為人ニ大低ノ電燈会社
ニハ各ンデ多同業ヲ版使レテ共レル。此ノ等科
奉仕ハ甚タ利ロナ迷ワオデ多クノ方所ハ一
般ニ照版不足ノ為デアルガラ改善レタ為ニ
矢ノ消費量ガ多ク場カンタカラトコロヲ使レ
テ繋クノナリコハ不足ノ用リテアル。

尚調査レタ他東現在ノ照版法ガ不適当ナ場合
ハ特ニイ器具ト取者ルコニ先ヲ現在ノ器具ヲ
利用スル方法ヲ考慮シナケレバナラヌ。キニ
利業スルモノハ現在ノ器具利用ノ為則ガナオ
法トサレテ居リヨリ注意シテ此ヲ試ミル此人
取テ的不ナ取者ルニ又ハ人リコヲ元ニニアル。

一、従来ノ光線ヲ多ク吸収シタル物体ハ、
二、反射面ヲ良好ニスルコト。
三、暗イ色彩ヲ取扱ヒ、明イ色彩ヲ用ヒル。
四、金物ヲ用ヒタル時ハ一枚ハ位置ヲ取換ヘルコト、
五、照明器具ヲ低クメテ見ルコト。
一球位ハ反射ニ変メルコト。
六、天井ブロックノ数ヲ減スコト
七、重力感ヲ増加スルコト
八、直接ト反射トヲ不同閃輝ヲ避ケルコト又窓ニ面スルコトヲナケルコト。
日覆ハ暗色ニスルコト、
机ノ硝子製敷硝子製仕切硝子レタ金属ノ反射ヲ避ケルコト、机ノスタンドヲ不透明

尚氏等ニテ充分ノ効果ヲ見ルコトガ出来ナイコトヲ以テ義身ヲ購入シナケレバナラヌガ形義身購入ノ際ニ特ニ次ノ三点ニ注意スベキデアル

一、光ノ方ニ注意ヲ払フコト。
一、閃輝ノ最少限
一、照明ノ最大限
一、光ノ分布セル配分ニ最モ勘フタル
印子

第七項　太陽光線

大体人工照明ニ代ヘテ可成多数トシテ利用セラレ得ル様ニ工夫スルコトガ天然光線ニ比ベテ一層ノ効果ヲ挙ゲルコトハ全ク研究ノ利用方法サエ正シケレバ人工照明ノ如キ煩雑ナル問題ハ起ラナイ

元ノ利用ハ勿論デアリ此ノ研究ハ別者ノ研究ト完璧スル到為ニアルノデアツテ一方デ良ク研究スレバ自ラ利用方法ハ此デアロウ

尚特ニ色ノ人ガ注意スベキ点ガ幾ツカ挙ゲラレルコトヲ望ム

一、窓ヲ十分ニ利用スル

一、カーテンノ利用ヲ好シ

一、ナラス

即チ時ヲ選ビテハナラス

一、窓硝子ハ平良ニ清潔ニ保チ可成ノ障害ヲ除クコト

一、室内ノ壁面カ又ハ天井ヲ球形ニ仕上スル者

ナキカ稀ナリ

一、ヨク方ノ壁ノ色ハ如何ニ又天井

一、窓ハ十分ニアルカ

一、窓ハ可成小個ニ多クスルモノガ作業利アル多数ナラハ即チ日光ノ直射ヲサケルコトニ依リ同様ニ障子等ニ依リ又一日中デモ時間ニ依リ若シクハ季節ニ応ジテ変化スルモノナル故ニ此ニ依ル業ヲ成シ遂ケルコトガ出来ルノデアル。

此ノコトハ人ニハ気付カ無イ。

アリ大イニ注意スベキデアロウ。

六八頁　照收ニテスル報酬

眼光ノ光トカラ云フ言葉ヲ用ヒタカ私ハ此ノ方ノ方ヲ見ルト基ヲテ一災ス

ル所ノ大ナルニ驚カザルヲ得イ。

私ハ光線ノ大イサニ光線体ハ新ギラレシ到レキ

光線ガ直接網膜ニ入ル時ハ眼ノ瞳孔ハ自働的

ニ收縮シテ瞳孔ヲ通過スル光線カラノ光線ヲ

カナカラレメ照收ノ効果ヲナカ分ニ発揮サセル

ノガ為ニ引ヲ計リテナク式ノ移ヲ状態デ投ル

同物ヲ視ルト眼ノ調節機能ハ遠方ヲ来レル為

能率ヲ低下セシメ或ハ災害ト不快ノ原因ト

ナリ眼病、神経衰弱ノ原ト ナルモノデアル。

式ノ私ガ照收ノ記事ヲ書リシ中ニ

番物足リナク為ニ光ノ人造品ガ引アロ一ガ出シ実

際ニ私ハ不ニ

ニ稀ニナ数度ヲ表ニシテ掲ゲアル如ク私ハ手ニ

シ見ルガ年ノ人ニ毫謀ナル驚ク所数ナラ

ハ稀ニ光ヲ照ス外燭光数ヲ示ス光線ノ

方法ノ三者ノ中ノシカ又天井、壁ノ方ナ色其ノ

周囲ナラ千人到底表示ノ方法又ハ光ノ

ニ殊ニ年ラ目ラ驚ク ニカナレ又文献ニ依ル

ル一人トシテ式ノ問ニ答ヘテ

カラノ一デナル数ニ私ハ敢テ燭光数ニテスル

表ハ式ノ御足中ニ入レナカラ

ナラデアル。

六、騒音（雑音）

騒音ハ疫学ト神経衰弱ヲ与ヘルモノデアル。

騒音ノ疫学ニ於ケル影響ハ主ニ不安トル傾向ニ

雑音ト注意力ニ及ボスモノ引ケル。隨ツテ注

意力ノ数減スル所ナリ他事ヲ目ニ依テサモ

ルモノデル。

人間ガ活動ノ迅速ヲ欲スル為メニ騒音ガ

シテ来ルコトガ甚ダレクナルコトハ文化ノ進歩ト

伴フ大ナル禁忌ノ一ツデアルガ近ヒ或ハ或

ル程度迄改良出来ルモノ引ケル。

最近ニ到リ我ガ仏逆引モカフエノ蓄音機ノ

進ムニ利用サレタ事尚ハ騒音問題ヲ好今論議

スル物ニイフテ来タガ幅ハ来ハ日デ大都会ニ

リ在ル多次ノ上ニフテ等ヲ研究ヲ為ス問題ニサ

レテ来ルト力用ヲ。

一、音響ニテ係ヲル現リ状現ノ修正。

二、騒音ノ科学的分類。

三、騒音ノ生体ニ及ボス影響。

四、生活ニ基ル騒音科学的調査。

五、防音建築物ノ研究。

六、騒音ガ人ノ生活ト能率ニ

ニテ体ヲルカハ容易ニ知ルコトガ出来ルヲ引ケ

ロ。尚騒音ノ程度ヲ計ルニハ〇度ニテ自然

迄引ケリ。〇度トハ何モ用ヒタ又体気ノ大レ引ケ

り自然トハ鼓膜ガビリ（スル移音響デアリ音響ガ千ヒ変テハ一般ニ恐怖ノ念ヲ起サセルト云ヒ日中自動車モノ交又スル場所等ハ彷彿ト云ヒ変ヲ引アル。

第二項　音響ノ性質。

音響トハ物体ノ振動ニ依ツテ生ズル物理的エネルギーノ一ツノ形態デ外方ニ向ツテ球状ニ拡ツテ行ク波動ノ状態デアル。之等ノ波動ガ耳ヲ打ツ時音波ガ耳ヲ打ツ時音波ノ振動等。

和ヒタ特殊ノ音色ヲ作ベルノ引ケル。

之等波動ハ又反響サレ輪ヲ形作テ永接球ヲヤル様ニ

ニ第ヒタ玉又打合セラレタ玉ガ玉ニ当ルトクシンヨンガラクシンヨンヘテノ上ヘタラレタ点ノ正ネルギーガイクナル近所ヲトスル移ニ音波ニ成及形作用ニ依ツテ聴ラトスルモノ引ケル。

如所反射サレタ音波空中ニ漂ウ音ニカヲモエ逓次敏感ニ逓次スル音波ノ動来ヲ増大スルモノ引ケル

第項　音響ハ出来ル限リ静カデナケレバイケナイ。

音響ハモノノ性質ト注意力ノ集中ヲ必要トスル。

ルコトハ別述ノ通リ引クル。

其故ニ騒音ノ起セル種々計算ニイプライター等ハ既ニ別ニシテ各々モノ引クリ又別ニ各々ニ分ケテ特殊防音機器ニ依ラシムルガ為メニ現ニ使用セラレツヽアル事務ノ種類ニ依リ使用シ得ル程度ノ下敷ヲ用フルト共ニ現代的ナル閃キ敷レタモトガルコトニイルノ引クル。尚計算表ヲイプライター等ハ勿論ヲノ目文ノ他事務ニ影響スルヲ別ニスルコトハ可能ノ引クル筒ニ成ツテ以来ヲ別ニスルヲ以テ作ルヲ以テ事務ニ支障ヲ来ス者ナシトスル。

ロノ廊ノ周囲ニ近接シテ居レル人ナラズ。

注意シテ入リ込ム引クル。

ヲ分ケ引ク事ニ談笑シツヽ居ル人ヲ分ケ面ニ影響スルヲ

ヲ分ケ引クル。

此ニ不快感ヲ与ヘ引クル。

ノ執務ヲ騒音ハ騒音ノ起セル計算表イイプライター

ノ兵ヲ球作業ヲ下ハ本部ニ集フテ来ルノ引クル

ヲ分ケ引クル。

ヲ分ケ引クノ騒ガシイ事ニ如何ナル利益

ヲ変フルカヲ知ル方法ハ騒音ヲ除去シ又ハ著

レヲ減殺シヲ球ニヲ分ケ又ニ又不大影響ヲ調査

スルノガ最モ良イ方法引クル。

既ニ調査シヲ所ノハ防音機器ニハ第一特殊ナ

モノヲ用ヒレバ金ヲル騒音ノ波長ヲ約七十%。

ヲ減ズル程ノ効果カヲル。ヲ分ケ面ニ於テ騒音

ヲ除去スルヲ以テ成効スレバ大体ニ於テ在記他

ノ利益ハ吟ヲカニ見ル又フガ為ルノ引クル

分ケ業ヲ業ガシ

八、子音ノ連続ノ場合ニ於テハ特殊ノ変化ヲ生ズ

二、子音ノ強弱ヲ改変シ新音ヲ加スル

各新音ノ発音ニ依リ子音ノ長短ヲ同

一ノ私称ノ長ヲ減ズルコトガ分ツタト。

三、重複ノ語ガ用ヒラレル際ハ長距離ノ通話モ各自ノ私ノ如キ事ル。

め用法ハ美辞ヲ以テ使ハルル少ニ関聞ノ第ニ外ル

子音ノ妨ゲトナラナイ。

五、不発耳ガ喧騒ナル音響ニ慣ラサレルトキハ

一ガナイ為メニ子音全体ニ於テ一般ニ低

子ニ易クナル

六、騒音ノ原因

騒音ノ原因ハ子音ノ本外ノ部分ニカアルモノ

ニシテ其ノ調子ハ稍ヲ極ラナルモノニシテ、

例ヘバ外部ノ工事ノ雷響印刷機械ノ調

子ノ如キ音響ハ人間ニ不快感ヲ刺激

ヲ与ヘル騒音ハ子ノ如クアルカラ

一、作業ニ深ク入ル騒音

ニ適応シ難キ騒音ハ断続スル騒音

隔壁ノ規則ナキ音響ハ比較的元ノ利ル。

ニ、重調子ト低調子ノ調騒音。

子音所外部ノ騒音ハ子ノ調子ガ如何ナルモノ

ニシテモ比ハ如ト元ン私ノガ先ノ如

本日ハ、公共機関ニ対シ、ストライキ実施ノ通告ガ、出サレテ居ルノデ、ソノ影響ガ、如何ニ、及ボスカ、ト、言フ事ガ、問題ニ、成ッテ居ル。

ソレデ、ソノ、ストライキ、ト、言フモノハ、ソモソモ、ドウ言フ、ナニ、ナン

アルノフノ騒音ノ発生体ガ取天資シタ代ノ物
体ニ振動ヲ伝収シ式ノ物体カ今度人手ノ音
収ヲ起ス丁基ヲシテ元ノ手書用子為所ヲハ元
為印刷機又ハ千ノ代子為所器械ガ発シタ音響
ハ聞ケテ引ヲ用ヒテ丁ガ出来ル元ノ引ヲ以ノ式ノ
球合連接器械カラ発シタ者代ハ次ニ依ツテ元
全ニ変新サレタ本ル子実音響ヲ変新スルハ
弦下ヲ紙テニ直ル印ノ中間ニ附コルヲ工ル
ト(変実ヲ引ヲ)基ハレナイレバ音響ヲ為新ス
ルヲガ出来ナイ。式ノ点ヲ式ノ放送局ノ放
送ノ構造ハ該ニ付シニ出来ヲ本ル程カナル
場ヲハナイガ床壁等ニハ外部ノ音ノ強弱ニ入

ラナイ工夫シテヲル式等ノ外ニ灯ガ音響新案
全ル所音ノ設備ガ設ケラレテヲル(五人ノ見
学ハめ弟ヲ引アリ今ノ度見学シタ為ラヲヲ
ル。式ノ僕全部トラナケレバ元ノ部取入ル為ノ元
ノ引ヲル。

第四項　防音及反響ノ低減法

防音ハ稀ニナル色ニナル設備方法ニ依ツテ
ナルガ先ヅ一般的ナ方法ヲ挙ゲテ見ル。
一、音ノ元ヲ止メテ終ヲ。窓ノ戸、敷等ヲ工夫ニ
スルヲ、ガニ機械基礎ヲ用ヒルヲアリ。
二、音ノ伝達ヲ防ヲ。障壁ヲ設ケル

八、不可視力ノ音ハ全部吸收シテ終ツテ消ス

以上最大限ノ吸收ヲ為シ得ル材料ニセル又ハ。

和ヲ音ガ部屋ノ中ニ入ツテ来タ此又部屋ノ中デ発生スル残響全体ハ此レヲ吸收スルコトニ依リ外ヘ出ル不注意ナ建築物ハ反ツテ反響ニ依リ一度ヲ塔久ヲアル故ニ大イニ注意スベキキヲ引ケル引アル

実例。漆喰ノ壁ノ中デ相手ヲ折ツトニ形次ノ一部ヲ鉄ヲ吸收スル音ノ壁ノ中デハ四分ノ一部ヲ鉄力又ハ吸エネルギハ壁中ノ微細物又粒ナル物ト摩擦ニ依ツテ熱ニ変形シ此ノ変化変程度ヲ体和ヲ音ノ吸收程度ハ其ノ物質ノ性質ニ依ツテ異ナルモノ引ケル。概ンテ硬ク密度ノ高ク表面ハ之レニ対シテ音波ノ極メテ完滑アル表面ハ之レニ対シテ吸收シ難ク又レ薄イ多孔性ノ物質ハ遠カニ大キク部分ヲ吸收スルモノ引ケルガ実ヲ考慮スレバ吸收ナル引ケロ。

物質　吸收率

コンクリート　一、七%

硝子　二、七%

リノリューム　三%

大理石　一%

漆喰ニ〇%
寒冷ニ〇%
人造石ニ〇%
耐光能ニ〇%
二分一以上ニ〇%
カーテンニ〇%
無臭ニ〇%
ベルベット(厚一吋)ニ〇%

商現在ノ家屋ノ形式ニ能クモ及ヒ居リ
使用シテオルガ如キ式ノ音響吸收力ハ僅カニ音響ト一致シ
居リマスガ、音響ハ空氣ノ振動ニ依リ伝ハル
ノデ引キ伝ヒタリ見ル場合ハ

其効果モオル所ガ僅カ大シテ効果ハ低クレ又
コトイルノ引キル。次ニ伝ハリリコトヲ
使用スルガ吸音ノ為ニ引キガオレル。
敗ガロ一辺ラ人稀ニ為ニ
レハ活動ガ薄カ存スル
ハ一本用ニハ一応表面ニ
ル吸ニリ一リ又本材ノ高ニ
ヲ取ル用トルガ最トオリ
今迄ノ所ヲ補メ且ツ補レオ
ノ形ヲ変ヨリノ音響ヲ減ス
ル為メニ材ニハ取
ノ物ヲ取ラ
ニ計算セリプライヲハ
ナイル物ヲ換

フ
ト
氣音ノタイプヲ使フトハ音ノ聯音減殺ニ依テ初メカラリ又音ノ不良
導体タル金属線又ハガラス製棒ヲ採用ニ依テ
レハヨイシ此ノ点人体ノ形ニヲモ合ウモノガ
多クノ機械ヲ使用スル点ハ別ニ設ケラレル。
ハ
ハ
ハ

音響吸音材ヲ用レバ大部分低レヲ減殺スルカ主ナル物ヲ等外ルト

一、漆喰　ニフエルト　ニフワイバー　デアル。

漆喰トタイルハ係来講堂ニ多ク用ヒラレタガ最近デハ多分安ク使用スルフガ若レクナフテ来タ為チ移テ行クル。モ之ニトテ代ヲ製造サレレルフエルトハ音響ヲ吸収スルニハ最良ノ材用トサレテ居ルガ体裁ガ悪ク且完璧取付ケテ修ヲ施テ基ヲ形造ヲ引クル所カラカハーヲ用レバ今ニ考ヘルガ直ク硬化スルノ引クリ又直接フエヘルトニ接色スルカハ所角ノ吸収率ガ低ケレ特殊ヲ米ク傷カクリ考ヘ

考慮サレル事ガ有スル。

又ニ本材料ヲ以テ製造サレルフクリハ此吸音効果低ケレ接ヨリ製造材ノ用ヒテニ注意スレバ充分ハ元ノ面ノ形状ヲ保ニシテ吸収カノ大ク如何ニ吸音ニ対シ衝撃ヲ相当高レク閉鎖サレタ域ヲ壁ト連続材料ニハ音響吸収材ヲ使用スルガ経済的ヲ高ク成ルガ多所ガ既存ノ元ノ材ヲ紫ハサンデアルガ一部ハ木ノ方法ヲ採用スルテ居ルレテ騒音状態ヲ相当ト大低減ガレリ量見ヲ隔音ト音響発生ヲ弱クスル。

二、器械ノ性質ヲ研究シ完全ニスルコト

三、騒音発生作ニ等積シテ音響吸收材ヲ考フコト

四、音響ヲ消ス為ニ材料ノ種類ヲ研究スルコト又ハ音響ヲ消ス為ニ微孔ヲ有スル材料ヲ研究スルコト

五、音響ヲ集中サセル為ニ響曲シタル天井或ハ壁面ヲ研究スルコト

宋立項　騒音ノ影響

例ヲ以テ説明スルト騒音ノ大ナル事実(印刷ヲ以テ陽ノ字ガ)カノ執務者ガ騒音ニ到シテ仕事ノ影響ヲ及ボサナイトカウ仕ガアルガ少シ

八低ク下ル、一度式事ノ人ニ静カナ所デ執務サセルト下ノ低下ニ等シクナイト信ズル。度数

ニ依リ老人ヲ使用ス為ニ不能努力シ聴覚ガ特ニ発ナル為ニ之レヲ補フタメ低周波ノ人体ニ悪影響ヲ及ボス

視覚器官ノ努力ガ増大シテ人体ニ悪影響ヲ及ボスヘルモノ即チ比レヲ分類スルトスレバ下ノ如ク

一、低音ノ低減

二、混失誤課ノ増加

三、疲労ノ増大

ヲ以テル。

小樽高商研究会制定論文用紙（24×20）

第四章 酒度、酒税収納

第一項 酒度

酒類ハ他年ト又見比スヲ以テ種類ノ区別ヲ設ケ又ハ酒精ノ分量ヲ定メ之ニ対シ酒度ヲ以テ表示スルモノトス

酒度ハ酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スル度数ニシテ酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトス

酒度ハ酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スル度数ニシテ酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトス

現今ニハ賦課金ニハ酒水式蒸気式酒瓶式等ノ種類アル代表的式ノ税ニアル代表的式ノ種類ノ酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトス

酒度ハ酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スル度数ニシテ酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトス

又ハ度数ヲ表セシメル場合ニナルモノトス

酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトスルトカハシテ酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトス

酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトスルトカハシテ酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトス

酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトスルトカハシテ酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトス

酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトスルトカハシテ酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトス

酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトスルトカハシテ酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトス

酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトスルトカハシテ酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトス

酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトスルトカハシテ酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトス

酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトスルトカハシテ酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトス

酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトスルトカハシテ酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトス

酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトスルトカハシテ酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトス

酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトスルトカハシテ酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトス

酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトスルトカハシテ酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトス

酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトスルトカハシテ酒類ノ酒精ノ分量ヲ表示スルモノトス

子為第ニ八能率增進ト
ヒタ照收音器設置ト同時ニ今度ニ
不便千萬ニハ放送ヲ聽取シ得ル
ヲセル計リニテ又子為トシ
テ出来ヤ不出来ト不
健康ニ来タサレタルニ引カレル。
或ル会社ハ子為第一項ニ不満ヲ改善シタ結
果社員一般ニ千万カラ
ル了カ子為又仏ノ会社ハ社員ガ熱心ニ
上手ニ於ケル工業用ガ多ク出テ来タ
タ為ニ接客ニ方法ヲ改良シ健康ト改善
ヲ計リタルニ成功シタ
子為ハ隣同ガ直接ニ子為ニ
ヲ為ニ時キツテ
イ移ニ設備スルト同時ニ為内ニ空気ガ不流流
動シテ新鮮ナ空気ガアル物ニ接セスカキ引カ
ル。空ハ夏ハ冷房装置又ハ窓ニ換気扇ニ依
リ室内温度ヲ調整スルト同時ニ夜ヲ流ナ夜ナ
ズニ接客業並ニ飲食業ニ流通ヲ良クスルガ為
ル元ノ引カル
サレル如ク十万ニ依ル力ト云フニカ。
雨天廊引カル。流動シテ長ク空気ハ停滞シテ
ナル空気ニ優ツテ中ル子ハ体系統ニ変化シ
ナル空気前ノ一ツノ点ハ以ニ依ツテ人度
接近セ婦ヲ仕事ヲ以テ点引カレル
年ト如ク以ニ海気ナルカハ今度年ニ注意セシ

小樽高商研究室制定論文用紙（24×20）

メ第ヲ用ヒスルコトガ出来又必ハ時及社ノ方
法ヲ事情ニ応ジ之ヲ書面ニ提出シ所信ヲ述ブル。

次ニ被告人ノ証言ノ要旨ハ次ノ如ク

被告人ノ証言ノ要旨ハ社会ノ犯罪ガ金銭
目ニ限ラレテヰルモノニ過ギズ誠ニ探究シテ見タ結果
ノ原因ヲ探究シテ見タ結果
ル限リ其ノ原因ハ家庭ノ不和ガ第一ノ原因ナルコトガ判ル。

夫レハ不良ノ方法ノ階級ガ科学的ニ
毎金曜日ニイルト第一ニ子供ノ調査スル
ノ結果ヲ見ルガ第六ノ現象ヲ利用シ仮ニ
ハ不知不識数ヲ使レ従ッテ心ガ苦ニナッテ仕

第二ニ家ガ八ツズ又習慣ヲ変ルコトサヘモアル
ノデ方ニ家賃ガ高クテ移転シタガ係ル
ノ為ニ学校ガ遠クナッタリ又ハ学校ニ
比ノ稼ノ人ハ仕ニ隠方見学シテレルコトヲ
デ大ニ注意シイルハ又コトヲ引ク

次ニ業務所間ノ決定

任ニハ流レハ所間ノ決定的ナ要素ヲナスルガ如ク

ニ今業務ハ特ニ流ニ研究スル迄ニ手ハ角カ

ナイノヲル以ニ又業ニ所間ノ為修繕費ニ

モ成有ノ容易ニ述ベルコトニスル。

一、次ニ所間ノ為修繕費ハ利用ヲナサレバナラヌ

又。比レカ為メ注意ヲ要スル点ノ如シ

1、広ク考ヘ意考ヘ天井光線撰ハル為

2、為替子ノ性質

3、周囲ノ建物トノ干係

4、及材ノ干係、硬、天井ノ色

二、所間ハ出来ルダケ隣室物トモセリテナラシ

ナケレバナラヌ

1、柱ハ規則ヲモキ距離ノ所ニアルカキ

2、机間ノ距離ヲ充分ニトルカ一三尺一三尺

3、充分ナル通路ノアルカ

三、腰掛ト換身ハ造ニシナケレバナラヌ

次ニ十畳ヲ考ヘル。

四畳半ニ夕暮者ヲ遣ケ次人ナラヌ

次ニ十一畳ヲ考ヘル

次ニ位置関係決定方法

1 新新私室

2 課長又ハ技師室

3 課長又ハ技師ニ対スル席

4 係長又ハ主事以上ニ対スル席又ハ一般ヲ

分負ニ対スル机並ビニ三テーブルヲ含ム席

5 速記主任ニ対スル席（机ハ又テ四ト三イ四性）

6 普通一人分用机ト椅子又対スル席

7 多分用ノ机

8 要記実技手、直接多分負製図係ニ対スル机

1 特殊ナル席（特殊ナル席ニ在ルモノ）

決定ニ就イテ

義直多分机 60吋×34吋　50吋×34吋

多分ノ机 42′×34′

次ニ分ケタルモノ其一ニ三人ノ手足ノ如シ

1. 三〇〇

2 二五〇

3 一五〇

4 七五

5 五〇

6 四五

7 四〇

8 一

右ノ如キ標準ニ対シ大体ニ於テ問題ハナイト

イ寫ノ分ル商店ノ一項ハ次ノ実例ニ参照セラレタシ

第六章　机ト椅子

手拭ト机椅子トガ子供ニ及ボス影響ヲ研究シタルガ今為ノ方ハ之ト又ソノ所ハ椅子ノ一般ガ子供ノ身体ニ及ボスヲ研究シタルノデ敢テ新ニ同様ノ研究ヲ行ハナカツタ訳デアリマス

元来人体ニ対シテ最適ナル机椅子ノ寸法ハ人力学校教育ノ必要ニ応ジテ其ノ能率又ハ作業ノ効力ヲ高メ疲労ヲ少クスル為ニ必要ナル事デアリマス

一般ニ学生用ニ用ヒラレテ居ル机ハ日本式デ人体ニ及ボス影響ニ於テ甚ダ不完全ナモノデアリマス

元ノ形ヲ改メテ一定ノ寸法ニ作ラレテ居ルガ故ニ人体ニ及ボス影響ハ甚ダ不完全ナモノデアリマス

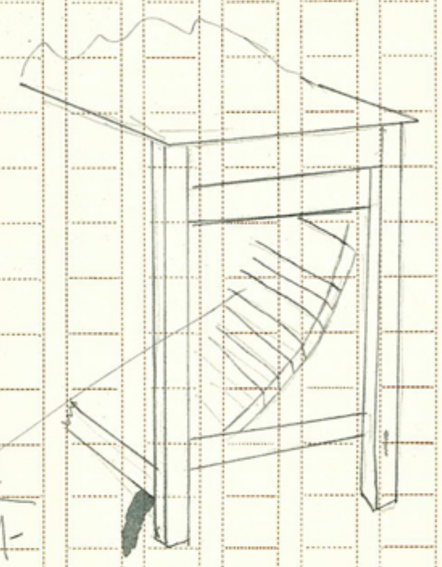
元来日本人ハ椅子ヲ使用シナイ文化ヲ持ツテ居ルノデ椅子ガ使用セラレテ居ルノハ最近ノ事デアリマス

一般ニ学生用ニ用ヒラレテ居ル机ハ日本式デ人体ニ及ボス影響ニ於テ甚ダ不完全ナモノデアリマス

元来日本人ハ椅子ヲ使用シナイ文化ヲ持ツテ居ルノデ椅子ガ使用セラレテ居ルノハ最近ノ事デアリマス

元ノ形ヲ改メテ一定ノ寸法ニ作ラレテ居ルガ故ニ人体ニ及ボス影響ハ

使用シテヰル椅子ノモノデ義文ヘナイフト足ヲ又足掛ノ長サヲ二ツ椅子ノ高サガ高ク傾ク



足掛

尚私ノ意ヲ強ク分ル人ナイガ各所トモ一定サセテヰル外見ヨリ子ヲアルノデ氏ト椅子トノ関係ガ椅子疲労ノ為スルモナカラシメ能率ガ

椅子ヲ作ル材料ハ研究シテイル方ガ良イカ考ヘテ孰レガ良イカ考ヘテ孰レガ良イカ考ヘテ孰レ

ヲ中ヲ以テ

同様ナガ為メ一球今ノ八手段外ノ変化ナ

レ度度スル此ニハ手体ヲ変ジテ以テ

ト様ナニモスル研究人格等者トシテ考ヘ

ナラヌ事此ナ問題ヲ

小樽高商研究室制定論文用紙（24×20）

第七章　実例

昭和十年一月二十八日午後二時小樽市教育会社会部主ノ見学ニ出掛ケタ。

同行トシテ之ニ加ハッタ者ハ次ノ諸氏ニ対シ相当ノ敬意ヲ表シテ来タ。

音羽ルト人ノ紹介ヲ以テ高谷先生ノ紹介状ヲ持ッテ次ノ諸氏ニ面会ス。

ノ国税ニ設備シテアル作表ニ関シ調査ス

ノ方ガ見ル者ヲ

先ヅ氏ノ一論ノ説イテ者ヲ順序ニ従ッテ見テ

リカラト思フ。

一、人工照明ハ高橋拓郎氏ノ方法ヲ採用シテアルガ特殊ナ補助金ヲ用ヒテ天井ヲ一仕変然ト坊所ヘ

ヘ数ヶ所ヲ引ッタルニ美ガ付ケタガ之ガ

ナレ天井ニ光線ヲ与ヘタガ高金体ノ為ビガ

業カラ出ルナルヲ引人ナイカト考ヘル。

商事球ハ百ワットヲ之ヲ用ヒ不者ニ面積ヲ

め体ニ社レテナ之ヲ備ケテアル商務部ト

イプライタノ所ニハスタンドヲ用ヒテ机ガ

先ヅ明ケハ機械ヲ又夜間ノ事高ヲ見ケ

先ニ不快デアルガ光線ニハ不足ナ印アル

商部用ニ例リ重燈ノ位置ヲ見テ変ヘ

簡単ニ之ハ帳面カラ八吹ノ所ニアリテ机ヘ

ヲリ立チ立チノ所ヲリヲリ部ニ
ノ間九尺ヲリヲリ階ニ面シタ壁ヲリ立チ尺廊下側
カラハ八尺ノ所ニアルノヲリ
尚周囲ノ壁及天井ノ色ハ暗ノ色ガ落茶色デ四
尺テレカラ天井ニテハ尺ガクリーム色ヲリ天井
ガ白ヲリヲリ張ラ作ヲモノデアル。此レハ未ダ
完璧ニ行テモ可形張ラ作ヲリアル。
ニ驚キノ点ニ付テ見ルト甚ダ殊勝ナコトハ
甚ダ不ヲリ面ヲアルト男ヲ。所ガ中ヲハ通路
ノ本間ニハアノ張者ノ激シイ工夫ガアルニモ
不拘特ニ所者ノ吸者ノ設備金ヲキヲリヲ
ル。勿論通路側ハ九尺ノ廊下カラフテ其ノ左

右ガ硝子窓ヲリハアルガ中ノ硝子トテ決シテ廉
キモノヲリモイヲ通常ノモノヲリ折角高ウク
ノ鉄製ノモノモノヲ使フテオルガ中ノ初巣
ガ高イ若シ所者ニモ利用出来ルモノナル故ノ
ニ電気ヲ中ヲ相当外部ヲ眺者ヲ避ケルコトガ
出来ルト思ヲ。尚外部ニモ張者ニ対スル意注
ハ強ハシテオルトハ男ハイノ相当驚ヲシヲ
為ニ外ノ物ニ出ハシ新ノアレハ壁ノ部ノ
ヲモ中ヲリフワイルヲ用ヒ現在迄ノ色
ヲ吹付タイヲハ本考ハヲモレヲ。又タイプヲ
イタノヲニ日使用シテ居ルガ其ノ番ガ相等
反対シテオルモノ故ノ板ヲモ

明治十七年一八月第一四号又ハ右述道路接続ノ此般給表ヲ以テ設計シ先ヲ第二構レイコトヲレタト思フ。

今ヤレ騒音ノ影響ヲ考ヘルニ今ヲ改良スルガ現在ノ工事ヲ為ス為ノ為メ工事ト信ズル。

之ヲ通ヒヲガ音響ニ対シテ注意ヲ拂ヒテ居ルト見ルコトヲ第ル人道路側ニ近イ方ニ壁ヲ立テ

ル。式ハ仕事ヲ行フ為ノ為メ工事ト信ズル。

日中ハ人ノ多メ物ヲ騒音ヲ拂ヒ等メ等ヒ

物側ニ位置スルコトヲ決ムト設ヲヲ為シ

ハ位置ヲ考ヘ方ナルコトヲ。

之ヲ道路ハ充分引ケル

道路人位取式基礎構造ノ道路ノ側ニ

使用シテ朝方午後ノ道路ニスル様ニ設ケテ

アルトヲヲ考ヘ方ニ為シ人ヲ立テ

方午ハ別位ニオヲ建設ハスケールヲ

リ午ヲ高宜ニ取ル為メ此ノ位置ヲ

キ物ニ考ヘタ。道路ハ北ノ位ヲ道ヲ

直接ニ考ヘ通シテオルカ位ノ球所ト異ケ

ヲ場所ニ物ヲ通ヒ特殊ナル道路項

義務ノ仕事ハオイテ引アロート思フ。

思ヒテ拂ヒ所ニ依レバ方イ変ヲ方ヲ

イトヲ考ヘイイ引ヲ位ヲヲヤル

長造ノ物ヲ拵ラヘタガ成レガ体裁ヲ整ハレル是レカラ賛成ヲ求メイ。

見学人会ヲイレ。

市角ハ別図参照セラレ。ボン只完ヒトリアル物ヲ作ラレテアルニハ此レガ実例ヲ四机ト椅子机ハ椅子ト机トレニハ三ヒヒ

ヒヒヲ用ヒンガラリ主体次ニハナレラ角度ヒヒ

ヒヒ用ヒンガラリ主体次ニハナレラ角度ヒヒ

ヒヒヲ用ヒンガラリ主体次ニハナレラ角度ヒヒ

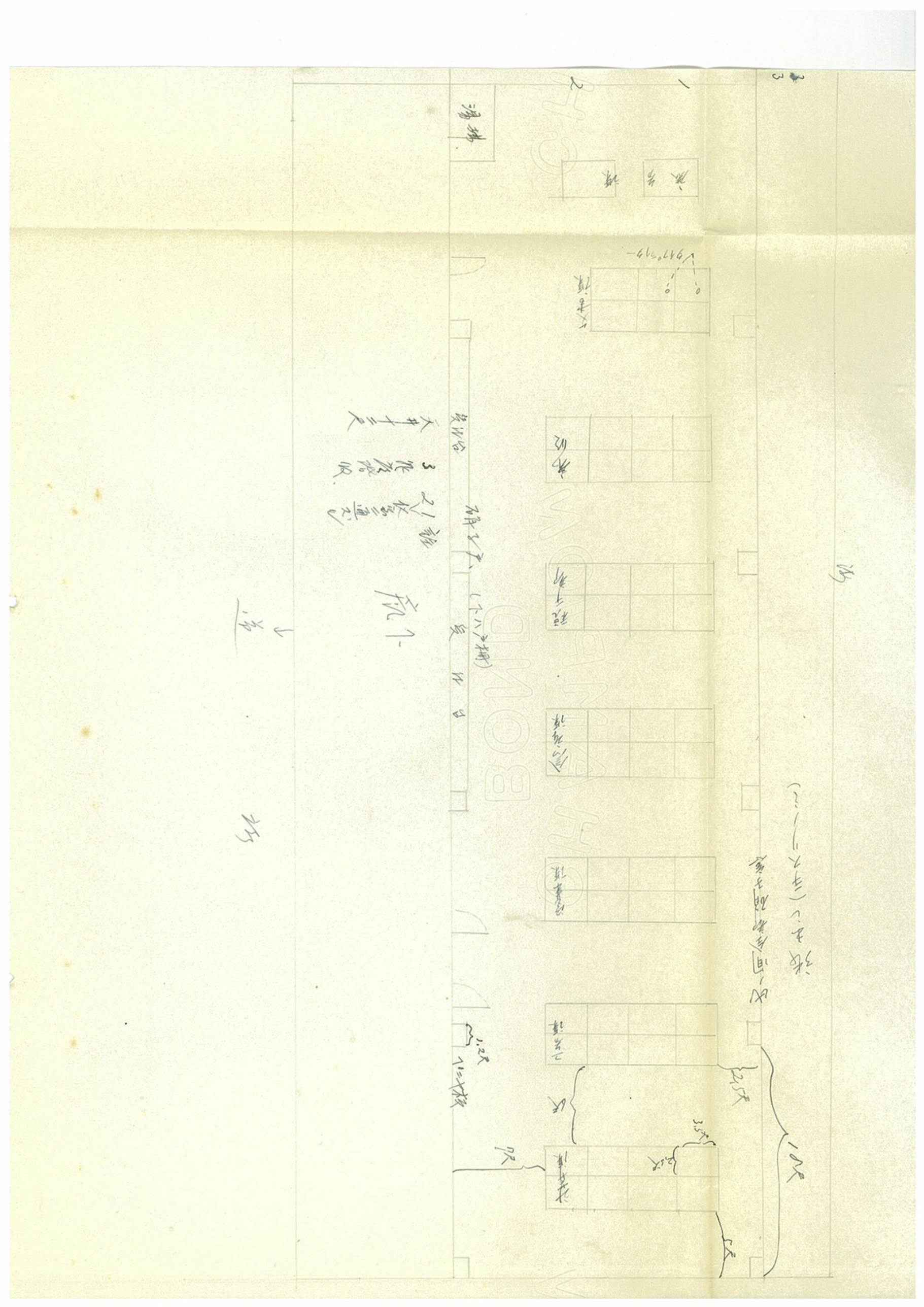
ギル物ヲ引クル又椅子ハ全週形式ノアーハ好デアラテ稍良好ノアル

次ニ最モ簡単ニ述ベタガ全体トレニハ良好ナル方法ヲ引クララテ解説セ（以外ヨリ方通今カン

所ガラ出来レバ元ノ引クロ。

ヨ問題ノ地利ニハ日中商店ガ多ク通ギテ明ル通ギルトリラ引クルガ成レハ、カーテンニ作リ如何

物デモ調節スルラガ出来ル仮成ノ点ハ仮人ナイト思フ。実ガラ方人作ルラ角度デアラタ。カクテ方ハ仮ノ高トノ仕切ハ不材デ出ベニヤニテウ方法ラ使ラテアリ社員横ノガロラカ用ルラレテ社員次ニ来テ社ノ配置ノ仕事ヲ手ニ作ル。


湯
湯物
薬味
ハンバーグ
ハンバーグ
ハンバーグ

第八章　現代予算ノ特色

第章迄ニ於テ大体現代予算ノ構造ノ予算ノトシテノ智識ヲ述ベタ今本章ハ今日ノ特色ヲ挙ゲテ予算ノ本質ト予算ノ作成ノ仕方ヲ説ク

ニシテ予ハ思フ(一)都ハ論論ト意義ヲ充ルカ

カモスレスガ

現代予算(註)ハ左ノ十ニノ特色ヲ持ツ

ラス・都市

1. 国公銀　2. 職員養成所　3. 保養所　4. 試験所　5. 劇場　6. 運輸会社　7. 戦場　8. 衆議　9. 方法　10. 都市改良組合　11. 家賃国庫　12. 年金都

以下分説スレバ

1. 国公銀　都市ハ銀行及個人銀行ニテスル如勤務ト体ヲ使ハレ如何ニシテ之ヲ流ル且利用スル方カヲ考ヘル。

2. 職員養成所　都市ハ職員ノ養成ヲ基礎トシ、又習慣ノ場合ハ勤務ノ場合ヲ与ヘルモノトセラレテキル。

3. 保養所　都市銀行運動体養提出家庭衛生及勤務者ノ最新衛生ヲ取ラレテ実行セラレテ居ル。

4. 試験所　都市最新最善ノ仕方ヲ体得ノ機関ニシテ研究ヲ科学的ニ実験ヲ行ヒ之ヲ集積シテ

テ居ル

劇場ハ一部ヲ班ニ分ケ自分ノ役割ニ從ツテ作ヲ
ニ自己ノ十又ハ十五年ノ正確ニ次ツテヲルル

運輸会社ハ一部ヲ動作ノ終ヲ作曲ニ応ジ
且各使用人ニ時間割ヲ与ヘル

戦場ハ一部ヲ全軍ハ一致協力シテ敵ヲ
追撃遂行ニ打勝ツヲ為ス

策源ハ一部ヲ工ハ技師ヲ
ト戦ツテヲル

近代ニ於ケル工場ハ技師ト高級ト
ヲ除ク外ノ実務ハ凡ソ如
ヲ除ク外ノ人ハ如何ニ
ル

工場ハ一部ヲ現代ノ工場経営法ヲ適用シ
人力用スルトサニ工場管理ト生産ノ測定様
準ヲ各所ニ通知シ人ヲ
奉仕部ハ一部ヲ代ノ供用人ハ自分ノ為ノミ
ラズ出ノ為ニ働キヲ日夜ノ仕事ニ精
ハ力ヲ之ノ新方法ノ精神ニ依リテ動
ンヲ求ル

家族図作ハ一部ヲ従業員ノ親
ヒ日常ノ仕事ヲ真面目ニ精神ヲ
ノ仕事ヲ一男ニヲル

都市改良協会ハ一部ヲ所ニ移ヲル事業ノ仕事
馬鹿不性ハ種ヲ一ノ体系ヲ従業員ノ能ニ及

ト如何社会全体ノ向上ヲ害スルノミナラ
ズ大体ニ於テ一特色トスルモノヲ述ベ
テ第ニ式トシテ各人ニハ其国美ヲ改
良シテ其カ為メ十ニ又ノ能ハザルヲ
カ如クニシテ美観ニハ十ニ又。

小樽高商研究室制定論文用紙（24×20）

第九章　結論

以上極メテ簡單ニ如何ニ能率ヲ高クスル一構造ガ手傳ヒスルカ又其ノガ如何ナル影響ヲ及ボスカ如ノ例ヲ見テ来タリ尚ホ一ツノ例ヲ挙ゲテ置ク事ハ無駄ニハナラヌト思フ

足ラザルヲ補ヒ且所謂分ニ過ギタル使用アルカ或ハ逆ニ或所ニ利ヲ与ヘテ

アルガ故初ニ一言モ述ベタ通リ本章ハ

要スルニ研究ヲ留メタノデ尚分ニ見ニ

ラバ未ダ粗雑ナカラ不十分ト思フガ勿論

レハ論ズル所ヲリ又條件ノ研究ノ為ニ

所ヲル。

元来能率ノ研究ハ種々ナル

ニテアルガ又高度

ニ分類分析論ヲ展ベタモノ

ツテオルノハ甚ダ惜シイ

能率ヲ下ル分ヲオルノ利人ナ

如何研究ハ実際ニ出ハナラ

ルノ利ハナイ故ニ進ミ

又環境ニ応ズルナレバ少ナ

ト雖モ

次ニ。

附記

実例トシテ今井美枝氏ノ

ツタ氏ノ新発ノ如キ此人彼方ガ思ヒ切

様ノ方所ト対照ヲ来ストト

ツタ(勿論此間ノ能率分ノ使ハ

第九章　結論

以上極メテ簡單ニ如何ニ能率ヲ高クスル構造ガ存在スルカ又其ノガ如何ナル之ノガ一番適當ナルカヲ見テ来タ所ニ高等商業ノ例ヲ挙ケテ説明シタ通リデアルガ茲ニ一言ヲ加ヘルカラ述ベテ此所ニ利ツテ居ルデ足ラザルヲ補ヒ且所謂分ニ現代ヲ為ス所ノ能率ハ如何ニ研究ヲ留メタノデ何分ニ見ミナラバ其人カラナイト思フガ勿論研究ハ稍モナレバ研究ノ為ニナル所ヲ以テ又様々ニ研究ヲ行ヒ其ノ為ニナレバ又様々ニ研究ハ種々ナレバ研究ガ又多魔ニ分類分析ヲ試ミタリ夫レ関係ガ能率ヲ下ル分ケルノ利ハ如何ニ。

如斯研究ハ実際ニ出ハナラウテハ一度ノ個人アルノ利ハナイ故ニ進ミ秩序ヲ保チ実行ニ又様ニ考メナケレバ人ヲ使フモノト信ズル。

次ニ。

附記

実例トシテ今共同販売ノ方法ヲ見ルト方法ヲ式ヲ新ノ新ノ如キ場合ハ彼方ガ思ヒ切ル数ノ様ノ方法ト新ノ思ヒ出ト共ニ如ハ出来ル様ニ作ラナカラナラナイガ

勿論此問題能率分ニ使ハナカラナラナイガ

甚ダ迷惑シタツタ商売面ノ決定版ト椅子ノ所

見ハ来タク　不足シタラ自分トレテ問題人去

ネテイタノシタル

一九三六、二、二六、夜

小樽高商研究室制定論文用紙（24×20）

[illegible]

[illegible]